

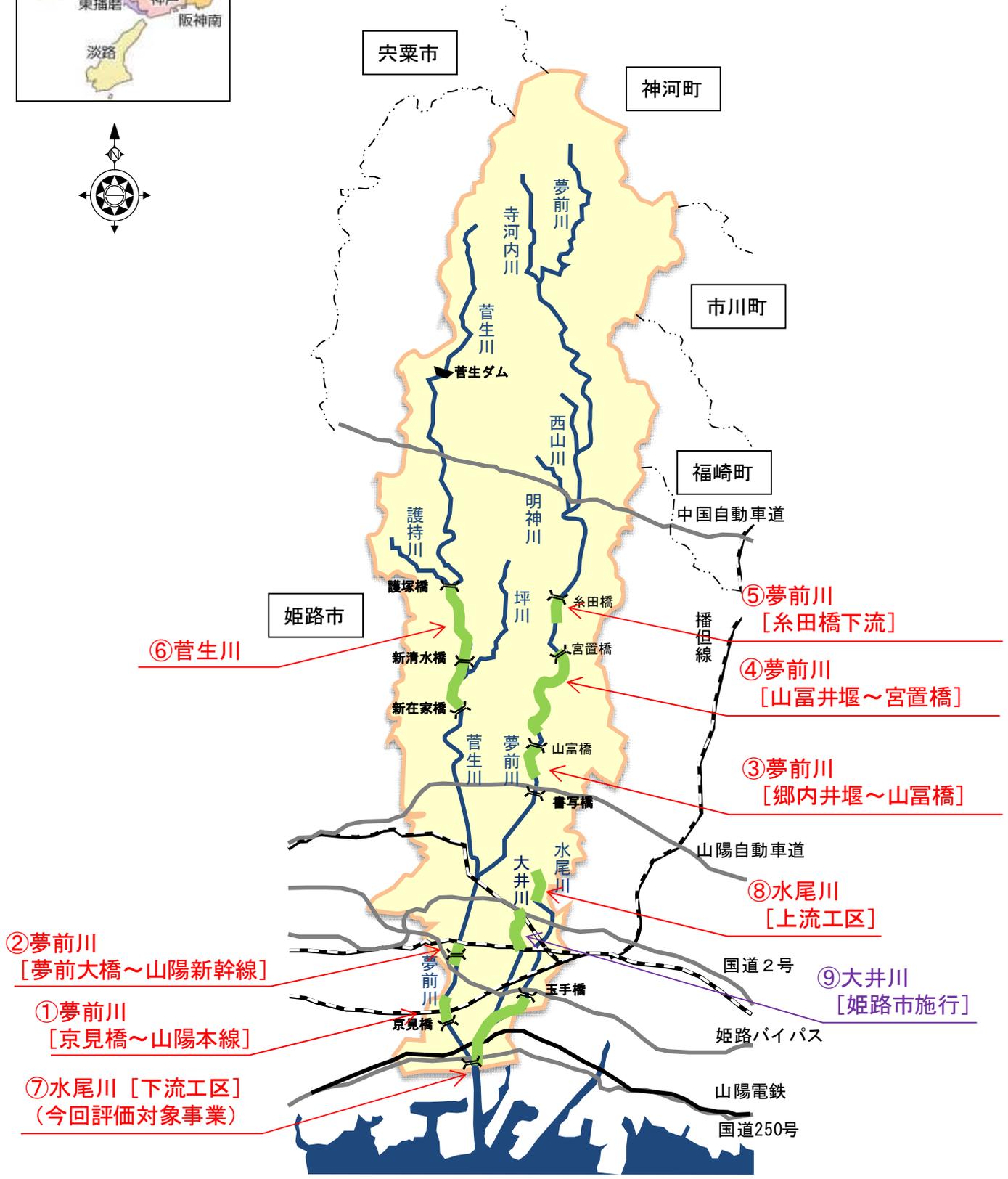
投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 谷口 徳男 (企画整備班主幹 奥宮 英治)	内線	4408 (4437)	
事業種目	河川事業	水系名	夢前川水系			
事業目的						
夢前川水系において、平成26(2014)年10月に策定された河川整備計画に基づく流下能力を確保することにより、治水安全度を向上させ、地域住民の安全・安心を確保する。						
夢前川水系河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」					前回評価年度	
本川			事業の状況		H26(2014) 整備計画 策定報告	
① 夢前川 [京見橋～山陽本線]	戦後最大の昭和51年9月台風第17号と同規模の洪水を流下 [基準点 夢前橋：1,100m ³ /s]		H30(2018)完了 (評価対象外)			
② 夢前川 [夢前大橋～山陽新幹線]			R1(2019)完了予定 (評価対象外)			
③ 夢前川 [郷内井堰～山富橋]			R1(2019)新規評価 (公共審 審査対象外)			
④ 夢前川 [山富井堰～宮置橋]			未着手			
⑤ 夢前川 [糸田橋下流]			未着手			
支川						
⑥ 菅生川 <small>すごう</small>	戦後最大の昭和51年9月台風17号と同規模の洪水を流下 [基準点 夢前川合流点：370m ³ /s]		未着手			
⑦ 水尾川 [下流工区]	年超過確率1/100の規模の洪水を流下		事業中			
⑧ 水尾川 [上流工区]	年超過確率1/20の規模の洪水を流下		未着手			
⑨ 大井川	年超過確率1/50の規模の洪水を流下		事業中 (姫路市施行)			
事業概要および進捗状況						
				今回評価内容 ()：前回評価時点		
工区	事業区間	整備内容	評価対象区間の事業費	残事業費	進捗率	完成予定年度
			内地地補償費	内地地補償費	内地地補進捗率	
夢前川水系	水尾川 (下流工区)	姫路市飾磨区英賀 河道改修 0.3km 護岸 掘削	18億円 (17億円)	11億円 (17億円)	39% (0%)	R7 (R2)
			2億円 (1億円)	0.1億円 (1億円)	95% (0%)	
	水系計		18億円 (17億円)	11億円 (17億円)	39% (0%)	R7 (R2)
			2億円 (1億円)	0.1億円 (1億円)	95% (0%)	

夢前川水系夢前川河川整備計画 全体位置図



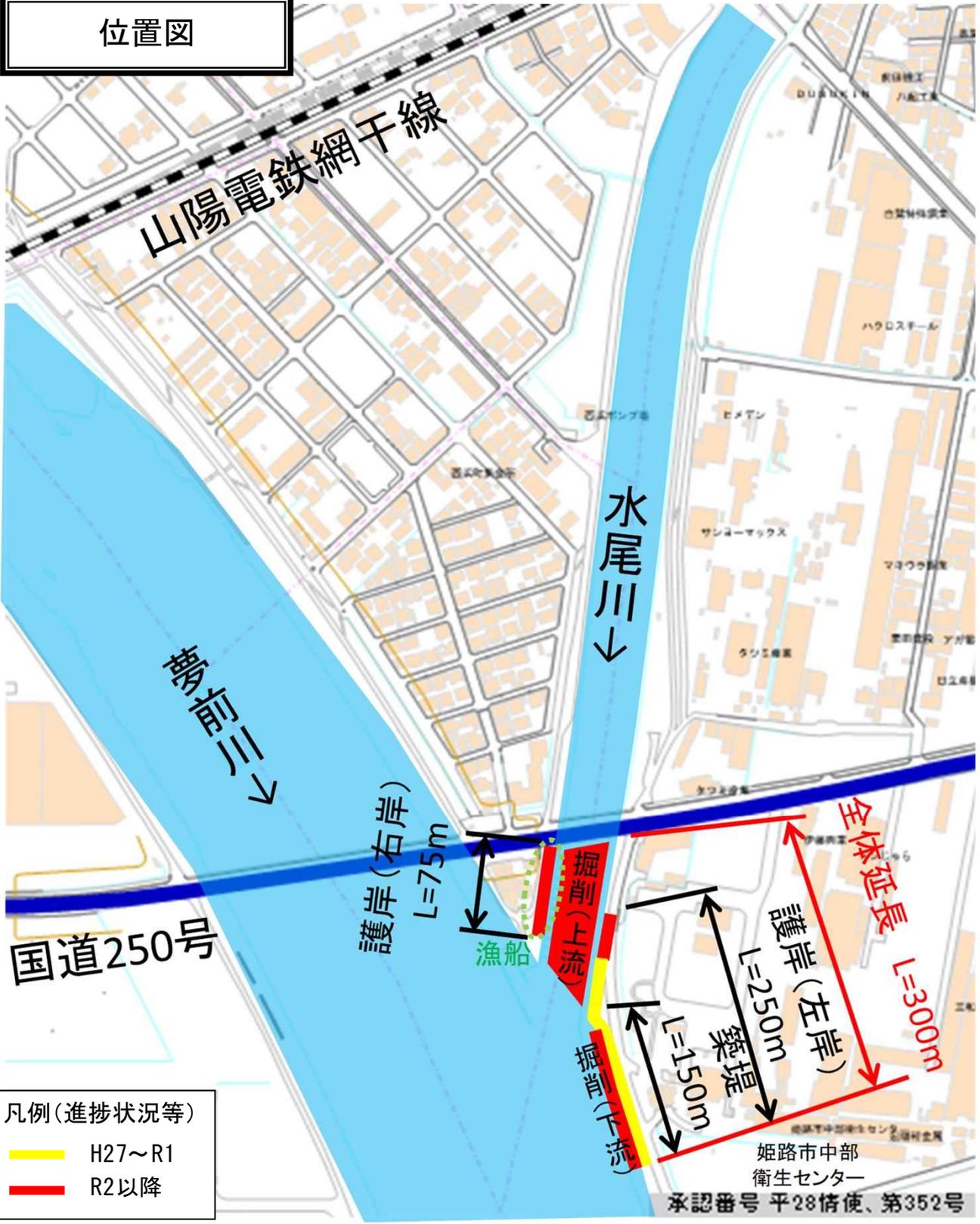
凡 例	
	河川整備計画において 計画的に整備を進める 区間



事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	平成16(2004)年、平成24(2012)年などに発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生していることや、平成30年7月豪雨など全国で記録的な降雨による災害が頻発していることから、地元の河川改修に対する要望がさらに強まっている。				
	【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 [水尾川] (事業費) ・下水道埋設管等の移転補償が新たに必要であることが判明したため、事業費を変更(1億円増) (事業期間) ・下水道埋設管の移設調整等により、事業期間を延伸(2年) ・当初は漁船を仮移転したうえで左右岸の工事を同時に進める予定にしていたが、地元調整の結果、片岸ずつの施工となったため、事業期間を延伸(3年)				
進捗状況	[水尾川] ・用地取得は平成29(2017)年度までに完了し、残るは下水道管の撤去である。 ・平成30(2018)年度までに、左岸河口付近の護岸工事に着手した。護岸工事完了後は河床掘削を行い、令和7(2025)年度の事業完了に向け事業を推進する。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H26年度策定報告)	【審査会意見】 特になし。	【対応方針】 —			
(1) 必要性	流域では平成16(2004)年、平成24(2012)年などに発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、近年も平成30年7月豪雨など、全国で記録的な降雨による災害が頻発していることから、河川改修に対する要望も強く、事業の必要性は高い。 【近年の主な浸水被害実績】 <table border="0" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:50%;"> [夢前川] ①近年の浸水被害実績 平成24(2012)年(床上1戸、床下22戸) ②近年の避難判断水位を超えた実績 平成23(2011)年—1回 平成24(2012)年—1回 </td> <td style="width:50%;"> [水尾川] ①近年の浸水被害実績 平成16(2004)年(床上2戸、床下34戸) 平成23(2011)年(床上2戸、床下4戸) </td> </tr> </table>			[夢前川] ①近年の浸水被害実績 平成24(2012)年(床上1戸、床下22戸) ②近年の避難判断水位を超えた実績 平成23(2011)年—1回 平成24(2012)年—1回	[水尾川] ①近年の浸水被害実績 平成16(2004)年(床上2戸、床下34戸) 平成23(2011)年(床上2戸、床下4戸)
[夢前川] ①近年の浸水被害実績 平成24(2012)年(床上1戸、床下22戸) ②近年の避難判断水位を超えた実績 平成23(2011)年—1回 平成24(2012)年—1回	[水尾川] ①近年の浸水被害実績 平成16(2004)年(床上2戸、床下34戸) 平成23(2011)年(床上2戸、床下4戸)				
(2) 有効性 ・効率性 (事業執行環境)	① 費用便益比：B/C=5.0(※河川整備計画における全ての事業による費用便益比) ② 事業推進に対する関係機関との協議・調整がほぼ完了しており、事業執行環境は整っている。				
(3) 環境適合性	流域では、回遊種としてアユやシマヨシノボリ、モクズガニ等が確認されており、井堰には魚道を設けるなど、生物の生活環境の保全に努める。				
(4) 優先性	残事業区間には人家連担区域が含まれており、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されている。				
の再 結果 評価	継 続	理 左 由 の	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、地元調整、用地取得や物件移転が完了し、築堤も完了しているなど、事業を継続する必要がある。		

夢前川 整備概要図

位置図



- 凡例(進捗状況等)
- H27~R1
 - R2以降

工区	全体	過去5年間以前 (H26)	過去5年間 (H27~R1)	今後5年間 (R2~R6)	6~10年間 (R7)
水尾川 下流工区	H26~R7年度 【事業費=18億円】 ・整備延長 L=300m ・整備概要 築堤護岸、河床掘削	【事業費=0.1億円】 用地	【事業費=9.9億円】 築堤護岸	【事業費=7億円】 護岸 河床掘削	【事業費=1億円】 護岸 河床掘削
		—	流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の向上

河川事業 二級河川夢前川水系 水尾川（継続：再評価）

位置図



目的

- ・浸水による家屋・人的被害の防止
- ・河川整備計画(H26)に基づく流下能力不足の解消

事業概要

事業区間：姫路市飾磨区英賀

総事業費：18億円

内用地補償費：2億円

事業期間：H26～R7

事業概要：河床掘削、護岸

延長：300m

費用便益比B/C：5.0*

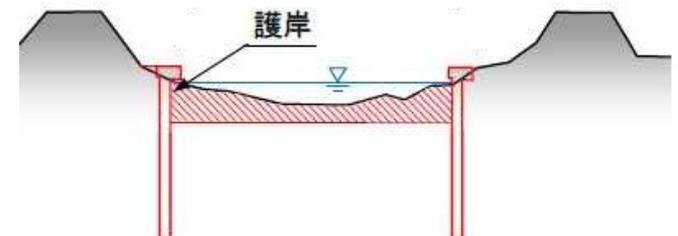
(※河川整備計画に位置づけられた全ての事業による費用便益比)

浸水実績

浸水実績 (H16台風4号)



横断図



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

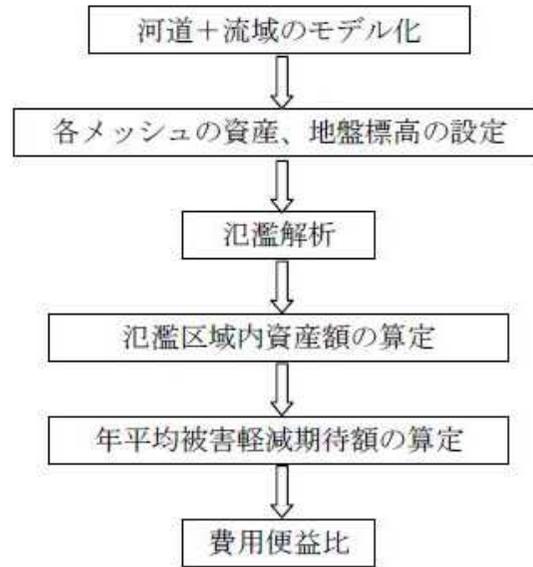
① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用

便益(B)の項目

1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化被害額
 = 一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



- ・平面 2 次元氾濫不定流モデル
- ・流域は 50m 四方のメッシュに分割
- ・メッシュごとに、人口、資産(戸数、事業所数、面積など)、地盤高を設定
- ・整備計画流量をもとに氾濫解析を実施
- ・メッシュデータと氾濫解析結果より被害額を算定
- ・洪水の生起確率毎の被害額、年平均被害軽減額を算定
- ・年平均被害軽減額から算定される便益と建設費用を現在価値化して費用便益比を算定

② 費用便益比(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
346,534 (百万)	確率規模1/30の降雨に対して ・浸水戸数7558戸の解消 ・浸水面積549haの解消	69,569 (百万)	64,228 (百万)	5341 (百万)	5.0

(※河川整備計画に位置づけられた全ての事業による費用便益比)

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減
	水害廃棄物の発生の軽減
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出

該当する事業内容等	
○	<ul style="list-style-type: none"> 浸水区域内人口20,807人、災害時要援護者6,328人を解消 最大孤立者16,237人(避難率0%)、9,742人(避難率40%)、3,247人(避難率80%)を解消
○	<ul style="list-style-type: none"> 国道2号線(交通量79,491台/日)、国道250号線(交通量15,309台/日)、県道67号線(交通量108台/日)、県道414号線(交通量11,838台/日)、県道415号線(交通量19,649台/日)、県道418号線(交通量3,724台/日)、県道502号線(交通量13,639台/日)、県道516号線(交通量5,685台/日)の交通途絶を解消 山陽電気鉄道網干線(乗客数7,130人/日)、JR山陽線(乗客数561,647人/日)の交通途絶を解消
○	<ul style="list-style-type: none"> 警察施設(1)の計1施設の浸水を解消
○	<ul style="list-style-type: none"> 水害廃棄物22,476t、処理費用629百万円の解消
○	<ul style="list-style-type: none"> 護岸は環境配慮型のブロック等を採用 井堰改築に伴う魚道の設置

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	水尾川・大井川改修促進協議会より、水尾川下流部の整備促進要望が上がっている。
-------	--

参考：事業の変遷

昭和43年：地震・高潮対策河川事業着手
 平成元年：総合流域防災事業着手
 平成25年：夢前川水系河川整備基本方針策定
 平成26年：夢前川河川整備計画策定